

平成 30 年度 第 2 回三条市こども未来委員会会議録（概要）	
日 時	平成 30 年 11 月 16 日（金）午前 10 時～11 時 6 分
場 所	三条市役所栄庁舎 3 階 大会議室
出席者	<p>検討委員：真壁委員、大谷委員、大竹委員、五十嵐委員、堀委員、小林委員、諸橋委員、本間委員</p> <p>欠席委員：鈴木委員、桑原委員、北山委員、近藤委員、西澤委員、小嶋委員</p> <p>事務局：栗山教育部長、栗林子育て支援課長、小島課長補佐、梨本センター長、熊倉統括指導主事、飯田係長、石黒係長、坂井係長、大澤主事</p> <p>傍聴者及び取材者：三條新聞</p>
委 員 会 内 容	
真壁委員長	<p>それでは、定刻となりましたので、これから平成 30 年度第 2 回三条市こども未来委員会を開催させていただきます。</p> <p>本日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>会議の終了は、概ね 11 時半を予定しておりますので、皆様御協力のほど、よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、教育部長さんから御挨拶をお願いいたします。</p>
栗山部長	<p>皆様、おはようございます。教育部長の栗山でございます。</p> <p>本日は、お忙しい中、平成 30 年度第 2 回三条市こども未来委員会に御参集いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、三条市の子ども・子育て支援に関する総合的な計画でございます「すまいる子ども・若者プラン」に掲げる事業の進捗につきまして、御審議を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。</p> <p>この「すまいる子ども・若者プラン」の計画期間でございますが、平成 31 年度までとなっております。今年度、次期計画策定に向けた取組を進めているところでございまして、今後、保護者の方々へのアンケート調査を実施したいと考えております。このアンケート調査は保育・教育サービスや子育て支援事業等に関するニーズを把握し、計画策定に必要なデータを得るための重要な調査だと考えております。</p> <p>本日は、委員の皆様それぞれのお立場から忌憚のない御意見を頂戴し、今後のアンケート調査に反映したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。</p>
真壁委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、出席者数、資料の確認等について事務局よりお願いいたします。</p>
小島補佐	<p>子育て支援課の課長補佐をしております、小島と申します。</p>

	<p>本日の出席者数でございますが、委員 14 名中現時点で 7 名の出席となっております。小林委員が出席予定となっておりますが、仕事の都合ということで少し遅れると聞いております。三条市こども未来委員会条例第 6 条第 2 項の規定にあります半数以上の委員の出席がありますので、本委員会は成立しております。</p> <p>次に、会議資料の御確認をお願いいたします。</p> <p>本日、お配りしました資料につきましては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第 2 回三条市こども未来委員会次第」 ・「平成 30 年度三条市こども未来委員会委員名簿」及び裏面に「座席表」となっております。 <p>また、先日送付させていただきました</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資料 1：子ども・子育て支援に関するアンケート調査概要」 ・「資料 2：子ども・子育て支援に関するアンケート調査項目について」 ・「資料 3：前回実施内容からの変更点」 ・「H25 子ども・子育て支援に関するアンケート調査票」が就学前、小学生、中学生を 1 部ずつ。 ・「調査票のイメージ（国の調査票）」となっています。 <p>このほか、「すまいる子ども・若者プラン」の冊子を本日お持ちいただくようお願いしておりましたが、皆様お持ちいただけただでしょうか。</p> <p>ここで、1 か所資料の訂正をお願いしたいと思っております。資料 2 の最後のページです。一番右に摘要の欄があると思っておりますが、その一番上の※で資料 3 修正項目とございますが、こちら追加項目に修正をお願いいたします。</p> <p>なお、資料の事前送付が遅くなりましたこと、今ほど資料の修正がありましたこと、お詫び申し上げます。</p> <p>資料についての確認については以上になります。</p>
<p>真壁委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、議題に入らせていただきたいと思います。</p> <p>子ども・子育て支援に関するアンケート調査について事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>栗林課長</p>	<p>おはようございます。子育て支援課長の栗林でございます。よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、私の方から資料の説明をさせていただきますが、申し訳ありませんが座って説明させていただきます。</p> <p>今ほど資料の確認をさせていただきましたけれども、なかなかたくさん資料がございまして、そもそもどこをどう見ればいいのかということがわかりにくかったと思っております。若干そのへんの説明をさせていただいてから内容について説明させていただきたいと思っております。</p> <p>調査票の就学前、小学生、中学生、国の調査票というものが皆様のお手元に 1 部ずつあると思っております。それにつきましては、国調査票と</p>

いうものが前回平成 25 年に国からこのような調査をしてはどうかというので配られたものでございます。これが調査票の全体のイメージということになります。また、それを踏まえて三条市として前回、どういう調査を行ったのかという調査票がそれぞれ就学前、小学生、中学生の調査票という形になっています。

子育て支援におきましては、市もそうですが、国も大きな予算を投じて実行しているところでありますので、この調査を行うにあたりまして国からこういう項目を聞きなさいと言われていたものがございます。国の提示する項目の種類としましては、必須のものとも聞いても聞かなくてもどちらでもいいという任意のものがございます。今回の調査につきましては、前回はベースに国から追加があったもの、削除させたいものを反映いたしました。その一覧表としたものが資料 2 ということになります。資料 1 は全体の概要でございまして、資料 2 が今ほど言いました前回と比べて加除するもの等を一覧にさせていただいたものになります。そして、資料 2 の詳細な説明をさせていただいたものが資料 3 となっておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、資料 1 から順に説明させていただきます。

資料 1 を御覧ください。子ども・子育て支援に関するアンケート調査の概要でございます。このアンケート調査の目的としましては、平成 27 年度に施行されました子ども・子育て支援法に基づく「すまいる子ども・若者プラン」の次期計画策定にあたりまして、アンケート調査の実施、集計及び分析を行いまして、三条市における保育・教育、それから子育て支援事業等のニーズを把握して、事業計画策定に必要なサービス量の算出、それから施策の検討に必要な基礎データを得ることを目的としています。

2 調査概要です。就学前児童の保護者用、それから小学生の保護者用、中学生の保護者用ということで、3 種類の調査票を作成いたします。各調査ともプライバシー保護のために無記名方式によって行うものでございます。このアンケート調査につきましては、今後の事業計画策定における基礎的な資料という位置づけですが、専門的な集計・分析等が必要になってくることから調査業務につきましては委託という形で考えているところでございます。

3 対象者及び対象者数でございまして、就学前児童は小学校に入る前のお子さんということで 0 歳～5 歳までのお子さんがいられる保護者 1200 人。小学生は 1 年生～6 年生までのお子さんがいられる保護者 1200 人。中学生は 1 年生～3 年生の子ども保護者 600 人ということであります。それぞれ各年齢 200 ずつということで考えております。

4 配布概要でございまして、ここには対象者数と同じになりますが、配布数と隣に回収見込み数を記載しています。6 参考を見ていただきたいのですが、前回調査概要といたしまして回収率をそれぞれ記載させていただいております。この回収率を基に今回 60%ということにいたしました。対象者を無作為に抽出いたしまして、配布、回収を行うものでございます。

5 スケジュールです。本日の第2回こども未来委員会におきまして、調査項目等の検討をいただき、その後調査項目を決定いたします。12月の中旬には調査票を配布、その後回収を行い、来年2月下旬には集計を行った報告書を業者からいただくという流れになっています。順次、当委員会において説明させていただくことになると思います。御協力いただきたいと思います。以上が調査の概要でございます。

続きまして、資料2を御覧いただきたいと思っております。※区分欄ということで左上に記載しているものですが、先ほども申しましたが、「必」と書いてあるのが、国が示す調査票で量の見込みの推計に必要な項目になります。この項目につきましては、必ず調査をしてほしいというものになります。表の中では網掛けをしていますが、ある意味この網掛けにつきましては、皆様に検討していただかなくてよいものになっています。なので、白い部分について検討の対象にさせていただければと思います。その次に「任」と書いてありますが、国が示した調査票の中で市が任意で選択できるものになります。調査項目としてやってもやらなくてもよいというものになります。これにつきましては、前回25年に実施したものなのかどうなのかということと、その隣の今回(H30)と書いて太枠で囲んでいる、今回どうしたいのかということに記載していますので、御確認いただければと思います。また、表の後ろの方になりますけれども市と書いてありますが、国が示す調査票にはない項目で、市が独自で設定する項目ということでございます。以上のことを踏まえたうえで御覧いただければと思いますので、よろしく願いいたします。それでは国調査票No.1から説明させていただきます。

子どもと家族の状況の分類の中では、任意項目が1つございますが、これにつきましては前回同様、今回も実施ということで考えています。その次の分類、子どもの育ちをめぐる環境でございます。国の調査票ではNo.7～11ということでありまして、前回実施しなかったものについては基本的には実施せず、前回実施をしましたNo.10気軽に相談できる人・施設の有無やNo.10-1気軽に相談できる先というのは今回も実施しようと考えております。この中で変更を考えておりますのが、国の調査票のNo.9でございます。日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無ということで、前は調査項目としなかったものですが、今回につきましては子育て環境の現状を知るために行ったほうがよいのではないかと考えてまして、就学前と小学生の保護者に調査をしたいと思っております。なお、追加項目ということで、資料2の詳細が載っております資料3を御覧ください。資料3につきましては、1ページから3ページが追加項目として考えているものになります。また、4ページ、5ページにつきましては修正項目、最後の6ページにつきましては削除項目となっております。今ほど言いましたNo.9の項目でございますが、資料3の一番上になります。日頃、子どもをみてもらえる親族・知人はいますかということで

1～5の選択肢を設定しておりまして、当てはまる番号すべてに○をつけてくださいということになっております。この設問を追加したいと考えております。

それでは、資料2に戻りまして2ページになります。2ページのほとんどが網掛けの必須項目でございますが、必須ではない白い部分が4つございます。そのうち、国調査票No.12とありますが、上の2つにつきましては母親に対して聞いているものでございます。同じ内容の下の2つは父親に対して聞いている質問になっています。前は4つとも任意項目ということで調査項目としませんでしたが、今回につきましては時間外の保育ニーズを把握したいということで追加をしたいというものになります。追加項目ですので資料3の1ページを御覧いただきたいと思っております。母親と父親に質問をとる形になってはいますが、1つは週当たりの就労日数あるいは時間等を聞くものでございます。もう1つはそれぞれ家を出る時刻、また帰宅する時刻を聞くというものでございます。以上が資料2の2ページにあります任意項目4つについてです。

次に資料2の3ページを御覧いただきたいと思っております。分類としては平日の定期的な教育・保育事業ということでございます。具体的には幼稚園・保育所・認定こども園等ということでございまして、この事業の利用状況について確認させていただくものになります。ここは網掛けの部分が半分ほどになっていますが、網掛けのない4項目について御覧いただきたいと思っております。この4項目につきましては前回、任意項目で実施していませんでした。今回も実施しなくてもいいだろうと考えているところでございます。次に1番下の必須項目16-2を御覧いただきたいと思っております。これにつきましては国からの必須項目であります。前は国が実施項目として提示していなかったものです。今回新たに国が追加項目として提示してきたものでございます。資料3では1ページの一番下になります。皆様のところにも前回H25の就学前のアンケート調査があると思っております。その7ページになります。7ページの間10の下に今ほどの項目を追加するということであります。幼稚園の預かり保育のニーズをさらに細かく聞くというものになっております。

資料2に戻っていただきたいと思っております。資料2の4ページを御覧いただきたいと思っております。分類が子育て支援事業の利用状況ということでございます。この4項目のうち2項目は必須項目でありまして、1つは市で独自に設定したもので、もう1つは任意項目となっております。これにつきましても前回と同様に実施したいと考えております。次の土日等の定期的な教育・保育事業の利用状況ということで、これも4項目のうち任意項目が2つございますが、ここは前回も実施しておりませんし、今回も実施しないと考えております。次の分類は病気の際の対応ということであります。ここは任意項目が4つございます。この4つの項目は前回、調査項目としたわけですが、4つの任意項目の一番上、病児・病後児のための保育施設等の利用時に希望する事業

形態ということではありますが、これにつきましてはすでに平成 28 年に病児・病後児施設を設立しておりますので、今回はニーズを把握する必要がないため削除するというものであります。ちなみに資料 3 の 6 ページになります。

次は、資料 2 の 5 ページになります。分類としては不定期の教育・保育事業です。具体的には一時預かり、ベビーシッターなどということになりますけれども、その利用状況を見るものになります。これも任意項目が 3 つありまして、前は 3 つのうち 2 つを実施し、1 つは実施しなかったのですが、これも前回実施したものは今回も実施、前回実施しなかったものは今回も実施しないということで考えております。次に就学後の放課後の過ごし方というところがございます。ここは必須項目 2 つを除きまして任意が 2 つ、市が独自で作成したものが 4 つということになります。このうち児童クラブの土日の利用と長期休業中の利用ということで、前回実施をしました任意項目 No.28、29 ですが、これにつきましては実際の利用状況から把握が可能であるため、あえてアンケート調査項目としなくても集計が可能であることから削除したいと考えております。その次の、学校がある日の子どもの帰宅時間、その次の放課後の過ごし方は市が独自で設定したものでありまして、前回中学生に対して調査をしたものでありますけれども、今回は中学生だけではなく小学生の状況も確認したいということで小学生も追加ということでございます。これにつきましては資料 3 の追加項目のところに記載させていただいております。それから、次の項目が子どもの休日の過ごし方という独自で設置していたものになりますが、どういうふうにご覧いただいておりますかと言った時に選択肢の設定が困難でありますことから前回実施をしましたけれども、今回は削除ということで考えております。このページの最後になりますけれども、これも市の独自設定項目となりますが、子どもが放課後を過ごす場所について聞いているものでございます。これも前は中学生だけでしたが、今回は小学生も追加するというものになります。

では、6 ページを御覧いただきたいと思っております。このページにつきましては育児休業や仕事との両立ということで必須項目がなく、ほとんどが任意項目で一番下のものが市の独自設定項目ということでございます。このうち前回と変更を考えておりますのが、上から 3 つ目、4 つ目、5 つ目の 3 項目であります。これらは育児休業に関することを聞いており、前は実施しませんでした。やはり子育てと仕事を両立できる環境の整備ということを考えますと、育児休業の現状がどうなのかということを確認する必要があるということで、追加項目として設定させていただくものになります。資料 3 の 2 ページを御覧いただきたいと思っております。国調査票の 30-2、3、4 と書いてあるところでございます。それぞれ、育児休業取得後、職場に復帰しましたか（父母それぞれに質問）、その後は育児休業から職場に復帰したタイミング、保育所入所等と関係してきますので、このあたりもお聞きしたいと考えております。また、実際にお子さんが何歳何か月のときに職

場復帰したのかをお聞きするものでございます。資料2に戻っていただきたいと思います。No.30-5になりますが、3歳まで育児休業取得が可能である場合の取得希望期間ということで、今回は就学前と小学生の保護者に聞いたところであります。摘要のところを御覧いただきたいと思うのですが、実際、3歳まで育児休業を取得できる職場がそこまで多くあるとは考えにくく、これを聞いても現実的ではないということで削除させていただきたいと思います。次のNo.30-6任意項目となりますが、これは父母ごとの希望の職場復帰時期と実際の復帰の時期が異なった理由ということで、前回実施していなかったのですが、今回、就学前の保護者にお聞きしたいと考えております。

次に7ページになります。7ページは、分類として子育てで感じていること・意見等ということです。ここにつきましては大半が市が独自で設定した項目でございます。国調査票のところに31、32と書かれているところが任意項目ですが、そのほかは市が設定した項目でございます。このうち上から3つ目の項目が今回、新たに追加する項目になります。こちら資料3では、3ページの一番上になります。これは前回実施しなかったものになりますが、新たに産後1か月の家事や育児を誰が行っていましたかということでお聞きしたいと考えております。実際に核家族化が進む中で、色んな子育て支援策を投じてきたところではありますが、産後1か月のサービスについては空白となっているところでもありますので、これについて実態を把握するために項目設定をさせていただきたいというものであります。それから、下から5つ目になりますが、これは市の保育サービスに関する満足度というものであります。これにつきましては資料3の5ページでございます。任意項目のNo.31に子育て支援に関する満足度ということで前回も設定させていただいていますが、これは市の保育サービスということでもう少し焦点を絞った聞き方を追加するものであります。また、資料3の5ページを御覧いただいていると思いますが、度合を聞くものに関しましては満足している、やや満足している、ふつう、あまり満足していない、満足していないという文字を入れて聞くことが多いと思いますが、このように矢印で番号をつけるとその度合がわかりやすく、つけやすいのかなということで、このような記載を考えているところでもあります。

続きまして、また資料2にお戻りいただきたいと思います。最後のページになりますが、8ページでございます。生活習慣についてであります。これにつきましては前回、設定していなかったものでありますが、今回新たに設定させていただくものになります。「すまいる子ども・若者プラン」は資料1の目的でも説明させていただいたとおり、子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援事業計画であります。このほかにもう3つ、次世代育成計画、母子保健計画、また若者に関する計画の側面を持ち合わせていることから母子保健等も含めまして、子どもたちの大事な生活習慣について必要最小限ではありますが、お聞きしたいということで設定したいということであります。

	<p>具体的には食育あるいは早寝早起きということは進めてきたところですが、それにさらに追加して眠育推進事業というものを現在実施し始めたところでございます。そういうものに関係するものとして4項目設定させていただきたいと思っております。1つは朝食の摂取状況、それから起床時間と就寝時間、睡眠に影響を及ぼすといわれていますテレビ、DVD等の使用状況、それから休日と平日の睡眠時間の差ということです。資料3では3ページになります。追加項目の13、14、15、16の項目が質問の内容になります。</p> <p>ざっと説明させていただきましたが、なかなかわかりにくい部分が多いと思っておりますが、御意見お願いいたします。</p>
真壁委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>資料1については説明した内容で実施されるということですので、資料2、資料3の調査項目等について御意見等あれば、お願いします。</p> <p>このようなことを聞いてみたいとかお気づきの点などがありましたらお願いします。</p>
堀委員	<p>まず、どの学区に住まわれているかということを知りたいのですが、それを聞く狙いを簡潔に教えていただきたいと思っております。それと資料1で対象者を無作為に抽出するとありますが、これは三条市全域を1つの対象として考えて、そこから無作為にということでしょうか。</p>
栗林課長	<p>地区を知る理由ということですが、この項目につきましては国からの必須項目ということになっておりますので、聞くということが1つあります。ほかの理由としましては、例えば保育等を考えたときに地区ごとのバラつきといいますか、実際子どもは何人いるのに保育の場所がここはあまり足りていないとか足りているとか地域によって差が出ると思われれます。そういう意味でどの地区の方が答えたということがわかるほうがよいということで設定させていただきます。</p> <p>無作為抽出は、無作為ではあるのですが、地区ごとでバランスがとれるような抽出を考えております。</p>
堀委員	<p>市全域を無作為だと学区ごとに偏りが出してしまうと思うので、学区ごとに配分したほうがいだろうということで質問させていただきました。</p>
真壁委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>関連してなのですが、例えば幼稚園のときに回答した親が小学生になったときにまた回答するということがあり得るということでしょうか。</p>
栗林課長	<p>この調査につきましては、次期計画のために行うもので前回は平成25年に実施しておりますので、そのときお答えになった方がたまたま</p>

	<p>今回も対象になるという可能性があります。</p>
本間委員	<p>資料2の6ページの下の方なのですが、国の調査票でNo.30-7、8、9と書いてあるところです。短時間勤務については特に項目は設定しない予定だと思うのですが、その理由を聞かせていただきたいです。周りの母親で短時間勤務を取得したいけれども、職場の状況や雰囲気とかで取得できずにいるという話を聞くので、その希望や利用しなかった理由は興味深いと思うのですが、その点に関しましてどうお考えでしょうか。</p>
栗林課長	<p>利用できる、利用できないは職場の状況が大きく関わってくるものだと思います。実態を把握するという意味では確認するのもいいとは思いますが、基本的にはサービスを利用する、利用しないということをお聞きしたいということなので、ここまで細かいことは聞かなくてもよいと思ったのと、全体の項目数を考えた中であえてここまで聞かなくてもいいのかなということで項目には入れませんでした。</p>
本間委員	<p>少しずれるとは思いますが、この短時間勤務や育児休業については民間ではなく、国だとか市の職員が取得することによって広がっていくところもあると思います。私の周りにはわりと公務員の方が多いのですが、ある方は取りづらくてフルタイムで復帰したのですが、荷が重く感じたことや時間が合わなくて辞められました。ほかにも公務員で上の人に圧をかけられて時短がとれなさそうとかそういった話を聞くものですから。市がこの設問の結果によって民間に対して何か政策をするというのは難しいとは思いますが、市の方からそのような動きを積極的に見せていくというのもいいと思うのですが、どうでしょうか。</p>
栗林課長	<p>確かに設問が啓発になるということはあると思うのですが、その辺につきましては、また検討させていただきます。そういった現状があるということがわかりました。ありがとうございます。</p>
堀委員	<p>資料2の8ページの新しく市独自でやる生活習慣についてですけども、これらについては学校やPTAだとかでこのような調査をやってなかったでしょうか。</p>
栗林課長	<p>似たような形で食育等の調査がありますが、親の就労状況など他の項目と合わせて実施しているものはございません。五十嵐先生、学校としてやっているものはあるのでしょうか。</p>
五十嵐委員	<p>学校としてやっているものはあります。学校独自ではありますが、学習生活調査というものを年に2回～3回ほどやっています。今回の調査はきっといろんなところと関連させて調査したいということで実</p>

	<p>施されると思うので、学校のものとは違うものになると思います。</p>
栗林課長	<p>ありがとうございます。各学校で必要な項目を入れた調査を行っていると思うのですが、一斉に同じ項目を聞くというのと他との関連ということもありますので、今回お聞きしたいと思います。</p> <p>あと、眠育を推進していますので、その啓発にもなると考えております。テレビ、DVDなどの時間を制限して、学習時間を確保しましょうという観点はあるようですが、そもそもこれらの光が睡眠を阻害するといったような違った面のこともいわれていますので、入れさせていただきます。</p>
諸橋委員	<p>生活習慣の設問のところですか。今回の対象が小学生と中学生ですが、今、就学前の子もゲームやユーチューブなどを親が見ていると触れる機会が多いと思います。そういうところから睡眠バランスが崩れてきているということもあると思うので、もしであれば対象に入れてもいいのではないのかと思いました。</p>
栗林課長	<p>検討させていただきたいと思います。</p>
真壁委員長	<p>例えば、資料3の4ページで、市独自の項目の中に父親は育児をしていますかとか子育てを負担と感じていますか書いてあると思うのですが、国の調査だと設問の中に「宛名のお子さんは」というのがついていて、その子の時はどうだったかということを知っています。資料3はたぶん子育てを今負担に感じているかということでその後生まれた子どもとか上の子とかも全部一緒に現在のあなたはどうかということだと思うのですが、これはこれでいいのでしょうか。市独自のものはこう考えるという捉え方でいいのでしょうか。</p>
栗林課長	<p>そこまで、言葉の受け取り方を考えていませんでした。ここにつきましては宛名のお子さんのときということではなく、子育て全体としてということに計画しています。</p>
真壁委員長	<p>ほかはいかがでしょうか。</p>
栗林課長	<p>資料3の修正項目のところの説明しました、充実しているから充実していないまでの5段階に言葉を入れて○を付けるものではなく、矢印で度合を聞くものですが、同じような言葉を見るよりはこのように矢印で示したほうが気持的にわかりやすいのかなと思って考えているのですが、これについては皆様いかがでしょうか。</p>
堀委員	<p>1つ聞きたいのですが、このように矢印を付けて数字を並べる場合、わりと中間値を選択する人が多くなる傾向が出ると思うのですが。</p>

真壁委員長	5とか1とか極端な答えはなく、みんなが3の周辺をつけるのではないかということですね。
栗林課長	<p>こういう記載をした調査がございまして、これがいいなと思ったのと、字がたくさん並んでいると付けにくくなると思ひまして、このような設問にしました。</p> <p>確かに堀委員のおっしゃるとおり、2、3、4が多くなり、1、5が少なくなるということはあると思ひます。</p>
大竹委員	私はこれを見て、こういった方法もありだなと感じました。この前、作品展のアンケートを文字の形でとったのですが、同じ数字で提出される方が多くて、逆にこのやり方を取り入れてみようかなと思ひました。文章で書いてあると面倒だということを知ったことがあるんですね。違う質問でも選択肢が同じだとうとうしくなるようなことを聞いたことがあって、私もアンケートのやり方に困っていたのですが、このやり方は見やすいと感じました。
大谷副委員長	堀委員と同じく、これを見たときに中間が多くなるのではと思ひました。これでもないし、これでもないし、真ん中ぐらいかなと丸をつけたいなと思ひました。
本間委員	字で書いてあると例えば、育児をしている、まあまあしている、どちらともいえないと書くと思うのですが、それでもみんな3をつけるとかが多いと思ひます。この矢印が文字の入ったものに比べていいというのと、3をつける人が多くなるのではないかというのはちょっと別問題だと思ひます。
真壁委員長	このほうが視覚的に分かりやすくいいと思ひます。育児をしている、していないというのは真ん中の言葉を選びにくいので、感覚的に真ん中ぐらいかなというのの方がわかりやすいと思うのですが、すごく一生懸命育児をしているとかのことを聞きたいのであれば、言葉にしたほうがいいと思ひます。しているのか、していないのか、ほどほどにしているのかという感じであれば矢印のほうがいいかもしれません。
栗林課長	統計的にどうなのかとかいうことを考えずに見やすいかなということでは考えましたので、皆様の意見を参考に検討させていただきます。
栗山部長	ここからは感覚的な度合を聞くところであるとしつかりと前段で説明する必要があると感じました。
本間委員	別の観点のことですが、父親は育児をしていますかと聞くのは、いる時はしているということが聞きたいのか、時間的にしているのかを聞きたいのかがわかりません。いる時は手伝ってくれるけど忙しく

	てなかなか家にいない、土日も仕事で家にいないけど、いる時はやってくれるというのは育児をしているに入るのでしょうか。
栗林課長	ざっくりと全体的にみて、回答者がどう考えるかというふうに考えていただければと思います。
真壁委員長	回答者は母親なののでしょうか。
栗林課長	父親本人が回答する場合もあると思いますので、本人が答える場合は自分がどれだけしていると思うかというふうになると思います。
大谷副委員長	今言われたように誰が回答者かということをごどこかに明記することですよね。
諸橋委員	アンケート調査票を見ていると3ページの間4は番号1つに○ということですが、みんなで回答しましたという場合はその他に○を付け、括弧の中を書くような形になるのでしょうか。きっと一人だけで答える人は少ないと思います。もし、私であれば奥さんに聞くと思うので。書くのは父親だけど母親から聞きとったことという場合もあると思います。複数回答だと統計がとりにくいかがあるのかわからないのですが。
栗林課長	確におっしゃるとおりだと思います。参考にさせていただきます。
本間委員	資料3のテレビ、DVDは何時まで見ますかという質問ですが、日によって違う人が多いと思います。平日と休日とで違うとかの場合、大まかにこのくらいだなというのが見えればいいのでしょうか。休日は許しているという家庭も多いと思うのですが。
栗林課長	本間委員のおっしゃるとおりで、本当は平日休日で違うとは思いますが、今回はざっくりとした感覚でということで調査させていただきたいと思います。学校だともっと細かい調査をやられていると思うのですが、眠育を進めていきたいという中で全体的な状況はどうか、一人一人の状況というよりは全体をまとめたときにどういう傾向があるのかを知りたいということが1つあります。あと、平成29年から具体的なモデル地区を設定した中で本成寺中学校、月岡保育所、鱈田保育所、聖母子ども園の瑞穂学園エリア、このあたりは第四中を中心とした四つ葉学園エリア、それから三条大島学園エリアと3つに増えてきています。来年度色々な学園ができていくと思いますが、まだ市全体として細かいことが決まってくるわけではないので、そのような点でも全体として捉えることが重要だと考えております。
堀委員	最後に一点だけお聞きしてもよろしいでしょうか。資料1ですが、

	<p>対象は就学前 1200 人、小学生 1200 人、中学生 600 人ということですが、これは全体の何%ぐらいなのでしょう。この数が信用するにあたる数なのかを確認したいです。</p>
栗林課長	<p>今、具体的に何%というのはわかりませんが、大体、一学年あたりが 700 人、就学前のお子さんが 600 人ということです。就学前のお子さんであれば 1/3 程度です。前回もこの人数で実施をしています。</p>
真壁委員長	<p>それでは、予定しておりました時間よりはかなり早いですが、本日の議題については、以上で終了とさせていただきます。 続きまして、4 その他につきまして事務局からお願いします。</p>
栗林課長	<p>本日は、様々な御意見をいただきありがとうございました。 堀委員から最後に一言、皆様にとということでもありますので、よろしくお願ひいたします。</p>
堀委員	<p>高校生と先輩たちのユーストークという事業を青少年育成市民会議で開催しております、11月18日(日)の午前10時からソレイユ三条で開催されます。今回は4回目ということです。私たちの青少年育成市民会議は青少年の健全育成を図ることを目的としてやっていますが、今まで高校生との接点がありませんでした。高校生たちが今どんなことを学んでいてどういう夢を持っているとかの生の状況を知りたいということでNPO法人を作ったこの3校でやっております。ぜひ、お時間がある方はソレイユ三条に足を運んでいただくとありがたいと思います。今年が目玉は県央工業が作った、焼き芋焼き機を使用した焼き芋販売でございます。以上御案内でした。</p>
栗林課長	<p>今日いただいた御意見を踏まえまして、アンケート調査を実施していきたいと考えております。 今後の開催につきましては、アンケート調査の結果及び「すまいる子ども・若者プラン」の実施状況などについて、御審議いただくことを予定しております。具体的な日程等については、委員長と協議のうえ、後日御案内いたします。ありがとうございました。</p>
真壁委員長	<p>それでは、今ほど事務局より説明がありましたが、次回の開催については、事務局から案内があるということですので、よろしくお願ひしたいと思います。 そのほか、ございませんでしょうか。 以上で、第2回三条市こども未来委員会は閉会いたします。御協力、ありがとうございました。</p>